

～ 昨日の風 明日の風 ～
**経営コンサルタント
独白録**

【第50回】 変革を阻む域外への距離感



戸敷 進一

1956年生まれ、宮崎県出身の経営コンサルタントで、㈱経営改善支援センター（福岡市、URL <http://sien.co.jp/>）代表取締役。業種を問わない「組織活性化」の専門家で、全国300社以上の企業の活性化を指導。全国の商工会議所や企業などからの依頼で講演活動もおこなう。明確で分かりやすい表現で驚くほど短期間で「組織」を変えるのが強み。また、帝国データバンクの契約コンサルタントとして九州各地の企業を中心に多くの実績を上げている。

九州・沖縄地区の総面積は4万4514km²で全国の11.8%、総人口は1448万人で全国の11.4%を占めています。域内総生産（GRP）は約47.5兆円で全国の9.5%を占め、電力消費量、小売業年間販売額、地方自治体財政規模などの主要経済指標も全国の1割前後です。このため、九州はわが国の「1割経済」と呼ばれています。

意識の置き方

企業活動を行う上で、どのようなエリアでどのような人々を相手に業務をしているかを考えることはとても大切です。同時に、前述したような自分たちを取り巻く枠組みを理解することも大切です。交通インフラ、物流インフラ、情報インフラが急速に発達した現在において、従来型の意識と仕組みで会社運営を行うと間違った選択をしてしまうかもしれません。自分たちの身近なところにあるライバル企業や取引先だけを見て、様々な価値判断や行動基準を決めていないでしょうか。

弊社は福岡にあるため、九州・沖縄地区に関しては離島を含め様々な地域へお伺いする機会があります。同時に北海道や東北、北陸などという九州からすると少し縁が薄い地域も活動エリアとしています。そうすると、コストは別にして距離に対してタブーがありません。そうした立場からすると、九州各地で聞く「福岡は遠いから」という言葉に焦りを覚えてしまいます。「地域密着」という耳あたりの良い言葉に酔って、本当に必要な変革や変化に目を閉じているのではないかと。

福岡は遠いのか？

九州の中心地は福岡です。福岡県の人口は約510万人、福岡市の人口は150万人を超えました。

当然人や文化、情報が集まってくる場所です。その場所を「遠い」といつてしまった瞬間、個人や組織の中の時代対応は遅れてしまうかもしれません。福岡で開催される様々なイベントやセミナーをご紹介したとしても「福岡は遠いので」という一言で片付けられてしまうことが少なくありません。しかしながら九州に居て福岡は遠いと言っているとすれば大阪や東京はどうなるのでしょうか。世界経済の中心を占めようとしているアジア圏はどうなるのでしょうか。意識の狭さが企業活動を矮小化し、変化のダイナミズムを削いでいることを一度再認識する必要があります。

人口5600人の町で年売上高18億円！

先月、古くから付き合いのある北海道の企業へ行ってきました。10年ほど前に年売上高が7、8億円だった企業が、18億円規模にまで成長していました。新冠（にいかっぶ）と言う人口5600人の町にある企業です。10年以上も前に九州からコンサルタントを呼ぶほど意識の高い会社でしたが、その意識の高さの結晶がこの10年間の成果の中に現れていました。人手不足に対してはモンゴル人を使い、当然活動エリアは北海道も含めて他府県に及んでいます。来年からは九州進出を計画していて、九州の特質や進出戦略に関して現場サイドから鋭い質問を受けました。

「福岡は遠いので・・・」という意識の枠組みをどのように考えますか。ちなみに、先々月北海道の帯広から弊社のセミナーに参加した企業様へのコンサルティングを行うことになりました。先日打合せで帯広まで行ってきましたが、この組織もまた古い意識の壁を壊すために、新たなスタートを切ることを決めたのでした。「北海道は遠い？・・・」。